

風しん予防の意義

平成 30 年は、2,917 例の風しんの報告がありました。また、平成 30 年下半期から急激な増加傾向にあります。患者の多くは 30 ～ 50 代の男性で、都市圏を中心に報告されています。妊娠中の女性（特に妊娠 20 週頃まで）が風しんに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性があるため、注意が必要です。先天性風しん症候群は生まれつきの心臓病、白内障、難聴、発育発達の遅れなどが主な症状です。予防できる病気ですので早期の対策が必要となります。厚生労働省はこれまで風しんの定期接種をうける機会がなかった昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性に対して、抗体検査をした上で予防接種を行うこととなりました。対象となる男性は市区町村により送付されるクーポン券を使用すれば、原則無料で抗体検査及び定期接種を受けられるようになります。3カ年の計画で段階的に実施されるので、今年度は昭和 47 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性がおもな対象です。詳しくは保健センターに問い合わせて下さい。平成 26 年から先天性風しん症候群の子どもの報告はありませんでしたが、今年になり埼玉県で一例の報告がありました。女性だけが風疹の予防接種を受ければよいと思われませんが、予防接種をしても十分な免疫が得られなかったり、ご家族が風疹を発症すると濃厚接触となり感染が成立してしまう可能性があります。これらの理由から男性の予防接種が必要となります。積極的な抗体検査や予防接種をすることをお勧めします。尚、昭和 54 年 4 月 2 日以降に生まれた方で風しんの予防接種を受け忘れた場合も抗体検査をすることをお勧めします。